

目指す学校像 大砂土小学校を誇りとし、150年の伝統を深化・充実させる～通いたい、通わせたい、勤めたいと思える学校づくり～

重点目標  
 1 真の学力の向上と考える力の育成、学びの自律化に向けた指導方法の工夫改善  
 2 安全で安心できる教育環境の整った学校づくり 教育支援・教育相談体制の充実  
 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働による「地域とともにある学校」の実現  
 4 一人ひとりの Well-being を大切にしたい持続可能な指導体制の構築のため教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度 目標							実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学力向上に関する取組	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数・理科は、いずれも全国、市平均と比べて概ね良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、学習に対して自らの課題を見出し、主体的に学習に取り組むことができる児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果において、各領域等での顕著な課題はみられないものの、問題文を正しく理解して解答を導き出すことに課題がある児童もみられる。 ○知識・理解に対する習得は十分である傾向が強い。多様な発想や考えを生かし、柔軟な表現を創造することに課題がある児童も見られる。	・「真の学力」を育成する学習指導の工夫改善、学びの自律化に向けた情報端末の活用 ・さいたま市読解力向上プロジェクトを生かした取組の充実	①全国学力・学習状況調査の自己採点に基づく振り返りを生かした知識・理解の確実な定着 ②「学びのポイント」(じしゃく)を生かした授業研究を年間1回以上取り組む、児童の主体的な学習の機会を確保する。	①教職員・児童・保護者に対するアンケート調査の、「真の学力」を育成する取組に対して肯定的な回答が90%以上となったか。 ②「学びのポイント」(じしゃく)を生かした授業研究を実践することができたか。	①アンケートの肯定的な回答割合は、教職員92%、児童97%、保護者79%であり、平均は約88%であった。 ②学校課題研究を通して、「学びのポイント(じしゃく)」を生かした授業改善に取り組みことができた。 ICT活用の推進により児童や教職員は指導方法の改善を実感している様子うかがえる。	A	①「真の学力」に対する説明が十分でなく、保護者の肯定的な回答割合は増加していない。学校だより等を活用し、十分な説明と取組の充実を図っていく。 ②引き続き「学びのポイント」を生かした授業改善を進めていく。	
2 安心・安全に関する取組	<現状> ○全国学力・学習状況調査「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をする児童の割合は、全国・市平均を上回っている。 ○特別支援学級に加え、通級指導教室が設置され、児童の学びの場の確保が進んでいる。 ○設備の老朽化が著しく、また、特別教室等が学校規模としては十分ではない。 <課題> ○児童数、学級数の増加はないものの、大規模であることには変わりがない。特別教室の新設は困難である。 ○理科室、図工室、家庭科室は各1教室しか確保できず、複数学年での授業展開ができない。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に対応した校内体制の充実 ・安全な生活の実現について主体的に考えることができる児童の育成に向けた指導の充実	①教育支援・教育相談体制の確立と情報端末を活用したアンケートや面談の効率的な記録と活用を充実させる。 ②定期部会の集約とケース会議等の情報共有の徹底、組織的対応の徹底に基づく、誰一人取り残さない支援対応を継続し充実させる。	①活用しやすい情報共有のためのデータベース及び校内教育支援センター機能の確立を図ることができたか。 ②月2回以上の教育相談日の設定と必要に応じたケース会議の開催し、情報共有・組織的対応の充実を図ることができたか。	①校務用PC内のデータベースを充実させ、PC室を校内教育支援センター「Sola るーむ」として運用しはじめることができた。 ②月2回以上の教育相談日を確実に位置付け、さらに随時教育相談に応じることができた。	A	①データベースを生かした児童理解をさらに充実させる。 ②「Sola るーむ」の使用に関するきまりなどを明確にするとともに、指導体制の充実に向けた役割分担や人員の確保を図る。	
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	<現状> ○学校運営協議会の熟議を通して、「地域とともにある」大砂土小学校コミュニティ・スクールを推進している。 ○開校150周年を記念する行事を検討・実践している。 <課題> ○「地域とともにある学校」として、情報共有や情報発信し、ポストコロナにおける地域の教育力の確保と学校行事等の再開の在り方に課題がある。 ○挨拶やコミュニケーションなど、児童に育てたい力に関する熟議を重ねていただいているが、改善に向けての取組が十分には実践できていない。	・節目となる周年行事を生かして、「地域とともにある学校」としての認知度を高める。 ・目指す児童の姿を地域全体で共有し、教育活動を効果的に公開する。	①学校だよりやHPを通して、学校運営協議会やSSNなどの取組を紹介し、目指す児童の姿を周知する。 ②ポストコロナにおける学校公開の在り方について、感染症対策を継続しながら、積極的に学校公開・情報公開を推進する。	①目指す児童の姿の共有に関する保護者へのアンケート調査の保護者の肯定的な回答割合が90%以上となったか。 ①学校の情報公開に関する保護者へのアンケート調査の肯定的な回答割合が90%以上となったか。	①アンケート調査の肯定的な回答は81%であった。 ②アンケート調査の肯定的な回答は91%であった。 他の項目では保護者の肯定的な回答が大きく変動するものもあったが、これらの項目は、昨年度同様であった。 ①アンケート調査の肯定的な回答は児童92%、保護者70%であった。 ②防犯ボランティア感謝する会を実施し、チャレンジスクールは計画に基づいて、確実に実施することができた。 北区防災訓練に希望する児童を参加させていただき、地域と一体となった活動の充実が図ることができた。	B	①②引き続き学校だより等により周知を行っていく。 授業参観とは別に、土曜日授業日の学校公開を再開させ、学校の取組について、保護者や地域の方々に広く知っていただく機会を増やしていく。	
4 教職員の資質向上に関する取組	<現状> ○高学年での教科担任制の実施、一人一分掌主任の徹底など業務遂行の効率化、情報の共有化を進めている。 ○学校課題研修として「未来の教室」の具現化めに向けて、エバンジェリストを中心とした教職員の研修体制を充実させている。 <課題> ○組織的対応や業務内容の標準化が不十分で偏りが見られる。 ○経験の少ない教職員も多く、教師の専門性も高くないことから、よい授業のイメージをもつことに困難な様子が見られる。	・校内授業研究会の推進と、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励による教師の学びを促進する。	①学校課題研究を意図的・計画的に推進し、情報端末や各種のアプリケーションの効果的な活用についての時間と機会を確保する。 ②人事評価を通して、対話に基づく研修受講奨励をする。 ③一人一研究として情報端末を活用した授業実践を計画し、実践する。 ④経験の少ない教職員に対する、コーチングの視点に立った指導方法の工夫改善研修を充実させる。	①学校課題研究の意図的・計画的な立案と理論研究・授業研究の実践を図ることができたか。 ②対話に基づく研修受講奨励により、教職員が学校を支える力を獲得しようと取り組むことができたか。 ③全ての教員が一人一研究として授業改善の取組に参画することができたか。 ④コーチングの理論に基づく教育相談や研修の機会を設定し、教員相互のOJTを実践することができたか。	①学校評価の肯定的な回答割合は96%であった。 ②自己評価面談を通して研修記録に基づく受講奨励を確実に実施することができた。 ③校内授業研究会を3回実施、指導主事による指導を受けた。また、全員が自己の取組をまとめ、共有することができた。 ④中堅教員研修や5年経験者研修を受講した教員を中心に、各学年内や学校課題研究の組織を生かした、コーチング的手法に基づくOJTに取り組むことができた。	A	①「学びのポイント」を生かした学校課題研究の取組を充実させていく。 ②教育委員会における研修の受講、勉強会などへの参加の奨励を継続的にしていく。 ③指導主事による指導講評、講話等の機会を設定し、学校課題研究をより充実させる。 ④経験の少ない教職員に対する指導の充実を図るとともに、組織的対応を充実させ、教員相互の学び合いを活発にしていきたい。	